

平成27年度 秋田県健康づくり審議会 成人保健分科会

がん登録部会 議事概要

1 日 時 平成27年12月15日(火) 午後4時～午後5時30分

2 場 所 秋田県議会棟2階 特別会議室

3 委員の出席

出席委員数:6

欠席委員数:1

4 議 事

(1)部会長選出

(2)①協議事項「全国がん登録事務の委任先について」

②協議事項「5年生存率の公表について」

(3)その他

議 事

開会宣言、健康福祉部健康推進課がん対策室長のあいさつに引き続き、「秋田県健康づくり審議会がん登録部会」の設置について事務局から説明した。

その後、議事（１）として健康づくり推進条例の規定に基づき部会長の選出が行われ、委員の互選により井上義朗委員が部会長に選出された。井上部会長は本山悟委員を部会長職務代理者に指名した。

（議事（２）①協議事項 全国がん登録事務の委任先について）

- **井上部会長** 戸堀委員と私は、議事に関係する公益財団法人秋田県総合保健事業団の役員及び関係者であることから本議事には参加しない。職務代理者に進行をお願いしたい。
- **本山委員** 職務代理者として議事を進行する。事務局からの説明を求める。
- **事務局** （資料８に基づき説明）
- **本山委員** 事務局からの説明に対し何か御意見や御質問はないか。これまで地域がん登録事業を引き受けてきた秋田県総合保健事業団に委任するのは自然な流れでないかと思う。
- **本山委員** 特に意見がないので事務委任先を秋田県総合保健事業団とすることについて承認するものとする。以降の審議を部会長にお願いする。

（議事（２）②協議事項 ５年生存率の公表について）

- **事務局** （資料９、１０に基づき説明）
- **本山委員** 資料１０の４（３）について、秋田県の地域がん登録における５年相対生存率の算出方法と他県の算出方法は同じであるのか確認したい。第２点目として、期待生存率について０．５歳分加算したとあるが、院内がん登録では見られない文言であることから、どのように解釈したら良いのか教えて欲しい。第３点目として、我々も期待生存率は国立がん研究センターのコホート生存率表を用いているが、例えば２００６年の相対生存率を出すためには、同年のコホート生存率表を用いるべきなのか、直近のコホート生存率表を用いるべきなのか、地域がん登録での取扱いを教えて欲しい。
- **戸堀委員** ２００６年データについては入手できないので、最新のコホー

ト生存率表を用いて算出した。また、地域がん登録では0.5歳加算するe d e r e r II法が標準の方法であり、秋田県もそれになった。おそらく報告書等では明記されていないだけで、一般的な方法と理解している。

- **本山委員** つまり、全国統一基準で算出しているということか。
- **戸堀委員** そのとおりである。
- **本山委員** コホート生存率表も全国で最新のものを使っているのか。
- **戸堀委員** そうである。
- **井上部会長** 5年相対生存率を公表すると、全国の地域がん登録を行う機関が秋田県のデータを注目する。そのため、できるだけ全国と同じ算出方法に沿って行うべきである。
- **戸堀委員** そのように行っている。
- **佐藤委員** 平成28年1月1日から全国がん登録が始まるが、これまでの地域がん登録のデータは全国がん登録に移行しないと考えるか。
- **事務局** 移行しないが、「都道府県がんデータベース」という県が整備するデータベースの中では一体的に保管されることになる。
- **佐藤委員** 5年相対生存率は、引き続き出していけるのか。
- **事務局** 出していく方向である。
- **本山委員** 地域がん登録では「限局」、「浸潤」など独特のステージングを行っており、院内がん登録の臨床病期とは異なる。しかし、院内がん登録が全国がん登録に歩みよって同じような登録項目を加えたので、おそらくデータは統一されると思っている。
- **遠藤委員** 5年相対生存率の算出対象だが、他病死は除いていないのか。
- **戸堀委員** 死亡小票から拾っているのので、他病死も含んでいる。
- **井上部会長** 5月に作成された「たたき台」に比べると、今回は全国推計の手法に沿って訂正されている。また、算出対象から除くものについては「地域がん登録の手引き」に沿った調整をされているので全国データと比較はできると考えられる。
- **本山委員** 公表の際には、全国のデータも一緒に掲載するのか。
- **井上部会長** 前回の「地域がん登録委員会」では秋田県のデータに限って出すと決めている。ただし、参考として全国のデータを参照することにはなる。
- **井上部会長** 今すぐ決めなくて良いが、各委員から出された意見の中で「5年相対生存率について、もう少しわかりやすく記載したら良いのでは」とあった。今回の内容は前回と同じである。専門的な人には通じると思うがどうしたら良いか。
- **井上部会長** この案は詳細版という扱いになるのか。

- **事務局** 戸堀委員作成の表が詳細版であるという捉え方をしている。
- **井上部会長** このほかにあるということか。
- **事務局** この案は概要版であり、これをベースに詳細版と一緒にホームページ等に掲載したときに、解説が正しいのか、どのような項目を載せたら表と文章の相関がわかり、より誤解を招かずに読んでいただけるか考慮いただければと考えている。
- **井上部会長** 概要として、この内容で良いか御意見を伺いたい。
- **本山委員** 資料10をそのまま公表するという解釈で良いのか。
- **事務局** 公表のための骨子案として捉えてもらいたい。
- **井上部会長** 広く県民に理解してもらうためには、もう少しわかりやすい表現でリーフレットなどを作成する必要がある。
- **井上部会長** 内容については、大きくいうと、全部位の5年相対生存率は62.3%であることが究明されている、部位別では3ページの上段で相対生存率が高い群、中程度、低い群に分けて解説されており、ある程度部位によって相対生存率が違うということ、発見経緯別では、検診群が症状受診などその他と比べて5年相対生存率が高いということである。ただし前立腺についてはあまり変わらず、肺がんは他のがんに比べて厳しい数字となっている。臨床進行度別では、がんの広がりによってどの程度5年相対生存率が違うのかが整理されている。「限局」の場合は5年相対生存率が高いが、「遠隔」の場合は悪いということがわかる。こうしたデータをどのように総括するのか、2月の部会まで整理することになる。
- **井上部会長** 公表の方法は、詳細版と概要版を健康づくり審議会へ報告、県ホームページへ掲載、市町村へ配布となっている。医師会関係については、手順として何かあるか。
- **佐藤委員** 県から指示があればそれに従っている。協力していきたい。
- **加藤委員** 資料は、きちっと読めば分かる内容である。「5年相対生存率」はある程度説明してもらわないとわからない概念だと思うが、関心を持って読んでいただければ非常に興味深い統計結果になっていると思われる。
- **佐藤委員** 秋田県の胃がん罹患率は一番だが年齢調整死亡率は一番でない、診断や治療の面で秋田県が悪いわけではなく、胃がんの罹患をなんとかしないと秋田県のがん対策は進まない。先日、日本医師会で開催されたシンポジウムの中で胃がんと生活習慣の中で一番関係あるものとしてはっきりしているのが食塩とピロリ菌だとの研究発表があった。こうした面に切り込んでいかないと、秋田県のがん対策として基本的なところで欠けてくるのではとの印象がある。

- **柳田室長** 罹患を減らすためには予防が非常に重要ということで、いま一番力を入れているのは「たばこ対策」である。食塩については生活習慣病一般の対策として行われ少し力の入れ合いは薄まっており、再度初心に戻ってがん対策として力を入れていくように検討していきたい。ピロリ菌については独自に検査を行ったり、中学生に検査を行っている市町村もあり、県議会からもかなりその対策について質問されている。ただ、これまでの答弁では、基本的に国のがん検診の検討委員会での議論を踏まえて、まだ検証が必要であるという立場で、はっきりとした対策はない状況である。これについては、国の検討委員会の状況をこれまで以上に注視して対策を考えていきたい。
- **井上部会長** 秋田県でがん登録をこれまで行ってきた結果、胃がん死亡率、罹患率が高いが、医療の面では5年相対生存率は全国並みである。一次予防に力を入れることと、限局で発見された場合は生存率が高いことから、さらに検診受診率を高める必要がある。がん登録のデータを他の部会にも提供して具体的に検討してもらうのもひとつの方策ではないか。
- **柳田室長** これまでは地域がん登録委員会と健康づくり審議会の各部会がそれぞれ独立していたが、がん登録についても部会として同じ並びに位置付けられたので、他の部会をリードし積極的に関わっていく流れを作ってまいりたい。
- **本山委員** 秋田大学では秋田県から受託研究を受けており、秋田県のがん死亡率をどうやって減らしていくのか政策提言ができるデータを提出することが求められている。佐藤委員の言われた胃がんについて申し上げると、秋田県の場合は罹患率の高さが問題であるのは確かだが、本当に秋田県の治療レベルが我が国トップレベルなのか、我々の目から解析するとまだまだトップレベルにはなく改善すべき点があるということとなる。このデータを県に受託研究の成果として提出して、県から各部会に報告していただく形になればと考える。
- **井上部会長** 院内がん登録についての全国の5年相対生存率を提供するのか。
- **井上部会長** この9月に公表された全国がん診療連携拠点病院の院内がん登録による5年相対生存率集計では、秋田県における全がん、胃がんとも相対生存率はほぼ全国平均にある。
- **本山委員** 部会長が言われているのは国立がん研究センターが公表するもので、秋田県についてはわずか3病院のデータで約2000症例程度である。それに対して秋田大学では秋田県の拠点病院の施設別、ステージ別により詳細に解析している。秋田県に提出することによって県民に還元され、

また各部会にも提供できればと考えている。

- **井上部会長** その他、意見、提案はないか。
- **事務局** 2月に第2回がん登録部会を開催し、公表案と2009年症例以降の5年相対生存率の取扱、全国がん登録の運用について御審議いただきたい。

閉会